

2日目 (6月9日 瀬戸田港～宮窪の観光案内所)

寝床が変わり、起床予定時間よりも早く起き、5時半には出発準備を始めました。1日目のゴール地点、瀬戸田港に向かうため、尾道駅前の港にまで行き、昨日お世話になった船長さんに介助をして頂き7時20分発の船に乗りました。この日も快晴で海の上はとても気持ち良かったです。

2日目は瀬戸田港から出発です。生口島のサイクリングロードは、平坦な道が多く、よく整備されていて、海沿いなので、走るには絶好の場所でした。このサイクリングロードは、ヤシの木のような木が道沿いに植えられていて、南国気分を味わえました。少し先には「ひょうたん島」(ひょっこりひょうたん島のモデルと言われている)が見えました。

多々羅大橋は1999年5月に掛けられ当時は世界一の斜張橋と言われていました。ここから四国愛媛県今治市になります。大島に入ると道の駅「多々羅しまなみ公園」があり、そこから見える海がとても綺麗で、多々羅大橋が大きく見えました。

今まで大きな橋を見てきたので、大三島橋が小さく見えました。伯方島は前の大三島よりも走った距離が短かったです。もう一度この島は、帰りに船で経由して戻って来ます。次に伯方・大島大橋の手前にある道の駅「伯方SCパーク」に着きました。ここは目の前がビーチになっていて海がとても綺麗でした。そして、観光客や地元の人達がくつろいでみえました。伯方・大島大橋、伯方SCパークとビーチ、そして海を見ながら気持ちよく進んで行きました。四国側に入り、サイクリングロードには、標識が多く分かりやすいのですが、路面が良くありませんでした。

この日は、大島に入ってすぐの宮窪の観光案内所をゴールにしました。まだ、先に進みたかったのですが、帰るには三回の船の乗り継ぎと港と港の間を車椅子の移動が必要等の理由で早めに戻りました。船は、大島～伯方島、伯方島～生口島、生口島～尾道の3便に乗って帰りました。



多々羅大橋

3日目 (6月10日 宮窪観光案内所～ゴール地点)

予定の最終日。昨日のゴール地点まで船で行こうと考えましたが、昨日の帰り同様の工程をしなければいけないので往復の時間を考え、昨日のゴール地点、宮窪観光案内所まで車で行く事にしました。

一番の難所が大島です。今までは比較的海沿いを通ることが多く、アップダウンが厳しくても走る距離が短かったです。この大島は島の真ん中を通って行くので長い峠を通るコースになりました。また、ハンドサイクルは上りが弱点なので、3日目は自走することになりました。宮窪観光案内所に1日車を駐車するため案内所のおばさんに了解を得ました。その時、しまなみ海道を車椅子で渡っていることを話すと、励ましと汗拭きにハンドタオルを頂き、とても嬉しかったです。進行方向を見てみるとずっと上り坂で、さらに3日間で一番気温が高く、日差しも強く腕や首周りが痛くなってきましたが、貰ったタオルを首に巻き、また多くの方からの声援で2つの峠をクリアし、最大の橋「来島海峡大橋」まで頑張ることが出来ました。

来島海峡大橋は3つの長大橋梁により構成された世界初の3連吊り橋で、全長4105メートル、海拔80メートルもあります。高さがあるためサイクリングロードは、勾配を緩やかにする為に円状に作られ距離を長くしてあります。今までの橋はほぼ平坦でしたが、この橋は3つ目の中腹まで緩やかな上りが続いていました。この橋を越え四国本土のサイクリングターミナル「サンライズ糸山」に入りました。四国に入った喜びを感じ、ゆったりと景色を見ていたかったのですが、ここから今治港まで6.2キロメートルあり、出航まで1時間しかなかったもので、すぐ出発しました。手から血が出てきましたが、出航時間に間に合わせるために、地図でだいたいの方向だけ掴み、死に物狂いで走りました。そして、出航10分前に何とか着く事が出来ました。ここが一番南の最終地点です。必死でここまで来ましたが、車が駐車してある所へ戻る為ゆっくりする間もありませんでした。

今治港の改札口や友浦港で「友浦港から宮窪までの峠は車椅子では難しいよ」と言われましたが、「しまなみ海道」を渡りきった自信から安易に考えていました。20分程で友浦港に着くとそこは本当に小さな村でした。やはり、聞いた通り、今まで走って来たサイクリングロードは整備がしっかりされており、自転車走りやすいように道幅、勾配など考慮されていました。この峠は長く、勾配がきつく、蛇行し、道の傾きも想像以上でした。しかし、残り3キロメートルを頑張り、無事にゴールすることが出来ました。

体力的に大変な旅行でしたが、良い経験と多くの人々に出会え楽しい時間を過ごせました。もう一度「しまなみ海道3日間の旅」で出会った方々に感謝致します。ありがとうございました。



来島海峡大橋